

# 外国籍児童のための充実した日本語学習支援環境作りに向けて

田中千恵子(国際交流協会日本語教室/Green Peace Kiryu 代表)

## 1.多文化共生推進活動団体 Green Peace Kiryu の実践活動概要

群馬県みどり市と桐生市にて「日本語サポートスクール」を6月より活動を開始し、学習者の少ないみどり市スクールの体制を見直しつつ、学習者獲得のために支援体制の強化を図る。

みどり市 外国籍児童数(教育委員会調査済)

みどり市外国籍児童人数			
小学生5年	2人	小学生6年	5人
中学生1年	12人	中学生2年	5人
合計 24人 ※うちスクール参加者 5名 現在			

国籍(中国2名・バングラデシュ・フィリピン・インド)※1人学齢期越えを含め全6名

## 2.実践における課題

- ・みどり市教育委員会と連携を取り、市内の小中学校へスクールチラシを配布(6月)、初期の段階での申込者は3人、その後、チラシの効果もあり、今現在、学習者は6人であるが、季節による通学の厳しさも考慮し、通学しやすい体制づくりも課題としている。

- ・学習者の様子に関しては、一人ひとりに寄り添う学習スタイルではあるが、効果とメンタル維持も課題。学習の継続をしても、発達、言語障害を持つ可能性のある児童については、日本語習得の停滞のみならず、反復学習のマネリ化による意欲低下も看過できず、日本語教育の枠組みを超えた専門的知見に基づく包括的な支援体制の構築も課題としている。

当団体の役割は、スクールの存在を知らずに学校生活で苦勞している外国籍の子供たちを、一人でも多くサポートに繋げること。そして、学習の遅れに不安を感じる児童や保護者に寄り添い、安心感を持って一步を踏み出してもらい、学校生活の土台作りを支えることを目標にしている。また、学齢期を越えた児童に関しても、安心して高校受験ができるよう情報提供しながら、児童にあった学習環境を作っていきたい。

## 3.課題解決に向けての実践した活動

### ①秋期研修で課題にあげた実践活動

- ・学習者のレディネス調査…済
- ・支援にあたる担当講師の資質と能力をあげ、支援体制を強化…済
- ・桐生市スクールとみどり市スクールの講師間で情報共有と支援対策…済
- ・広報内容の見直し…済
- ・みどり市教育委員会との連携強化…引き続き活動中

### ②秋期研修後の新しい課題について実践した活動

#### ・広報内容の見直しと情報発信の強化

- ・日本語支援の学習の場である施設の掲示板にスクールのチラシを提示依頼。

公民館で開講しているため、色々なスクールやボランティアグループ、サークルなどの活動が活発な公民館に外国人の利用や日本人からの相談も含め、目に留まることを想定し、配

置を依頼。

- ・やさしい日本語だけのチラシを多言語化に変更すると同時に、外国籍児童の日本語支援のみならず、希望があれば、児童の保護者も学習を受け入れる体制にし、親子で学校のお便りが読めることも目標設定とした。
- ・市役所の市民課にて配架を依頼。相談窓口など、外国人の方の目に留まりやすい場所への配架を快諾していただいた。

#### ・学生向けの保険加入手続き(学習環境整備)

日本語の学習に通学中、事故に遭った学習者がいたため、学習者の保険加入手続きをした。

#### ・開催校の増設による準備(学習環境整備)

みどり市サポートスクールの他、2026年5月より、取り出し授業をみどり市内小学校三校にて開催することになり、2月末にてみどり市教育委員会と会議を重ね、スタッフの配置、学習の進め方について準備を進めている。

#### ・両スクール講師を兼務体制に変更

桐生市スクールに関しては学習者の人数が多く、順調に学習を進めているが、みどり市に関しては、秋期研修の段階では、数人増加したものの、学齢期越えの学習者が、「未来共創中学校」への入学が決まったり、他、1人がスクールから遠い場所へ引っ越してしまい、学習者が減るいっぽうになってしまったため、各スクールの担当講師を定めず、両スクール講師全員で兼任し、助け合いながら、良い点、悪い点の情報共有をしながら進めていくことにした。

#### ・支援講師の増員

なかなか学習者が集まらない中、教育委員会より、5月から三校で取り出し授業の依頼もあるため、その支援体制整備を開始。今後の支援の拡大も見込めるため、スタッフ(講師)の増員も視野に入れて活動を継続。

秋期研修から既に当団体に新規スタッフが2人加わり、支援に向けて引き続き活動を続けている状況(全21人)

## 4.今後の課題について

### 学習の環境整備

- 現在は、みどり市サポートスクールは、単独で団体活動をしているが、2026年5月よりみどり市教育委員会と2月末に会議を開き、5月より新体制(現サポートスクール運営と新規で開始する取り出し授業)について準備を進め、新規体制で支援を開始する予定

## 5.「地域日本語教育コーディネーター」としての今後の展望

単なる日本語教育の支援だけでなく、日本文化の発信を含めた魅力ある教材開発と学習環境整備に注力し、質の高い学習と学ぶ楽しさを提供し、寄り添える支援・継続できる支援を目指していきたい。そして県内の関係諸機関との緊密な連携のもと、安全かつ安心できる学習環境を構築し、地域に根ざした質の高い教室運営を推進していく。

